

慶應義塾大学工学部同窓会東海支部  
結成40周年記念行事

P.1

## 「小金井キャンパスの思い出と 後輩へのメッセージ」



飯吉 厚夫(昭和35年 機械工学科卒業)  
(昭和40年 工学研究科博士課程修了)

出典：慶應義塾『塾』  
2012WINTER P26  
慶應義塾広報室 許可  
1446-1

皆さんこんにちは。私が一番若いということで、最近はいつも年寄り扱いされるので、大変嬉しく思っています。私は昭和35年に機械工学科を卒業し、昭和35年から昭和40年の4年間、小金井で過ごしました。その頃のことを思い出しながらお話しします。 5

このなかで小金井を知る人は？(4名が挙手)

これは校門でございます。工学部の前身は藤原工業大学であります。藤原銀次郎の私財によって1939年に日吉キャンパスの中に造られました。その時は慶應ではなく4年後、すなわち1期生が卒業する時に慶應に寄付するんだという約束で日吉に建てられたと聞いております。1944年に慶應義塾大学の工学部となりました。そういう意味で藤原記念工学部と言っていました。今はそういう風に言っていないみたいですね。その翌年から空襲など大変な時代を乗り越えるために転々と校舎を変えて、最終的に1949年に小金井、これは横河電機製作所の跡地で購入したか寄付を受けたかわかりませんが、6万平米という大きな敷地を手に入れて、1972年までの矢上台に移転するまでありました。その間私は勉学にいそしんでいたわけでありませ

## 現在の地図で見る 小金井キャンパスの跡地



出典：慶應義塾『塾』  
2012WINTER P26  
慶應義塾広報室 許可  
1446-1

これはこのころに工学部があった場所の地図です。位置関係ですが、上のほうにJRの武蔵小金井という駅があります。そこからバスで3つか4つところに、工学部の最寄りのバス停がございました。そこでまず右側の旧本部跡地と書いてありますが、ここに工学部の本部があり、左側に管理工学科がありました。 敷

ここは武蔵野の地でたいへんのんびりしたところでした。授業の天国と言いますか、何もありませんでしたから。垣根を越えればすぐに多磨霊園があります。私はよくここで休憩していました。

ここに小金井病院があります。精神病の病院でした。私どもの研究室がすぐ近くにあったものですから、病室の会話がよく聞こえてきました。そういう状況で勉強をしておりました。

管理工学科には日本で最初のコンピューター「K1」を作ったところです。そのコンピューターを使って私たちは計算をしていました。

## 小金井キャンパス風景

P.3

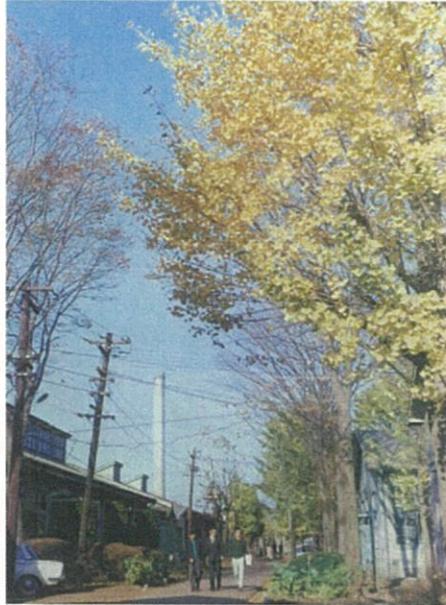


出典：卒業アルバム『KEIO UNIVERSITY 1965』

これが正門を入ったところにある桜でございます、春などはたいへんきれいでした。  
奥に藤原銀次郎さんの銅像が建っておりました。

## 小金井キャンパス風景

P.4



出典：卒業アルバム『KEIO UNIVERSITY』

これは校舎の通路でございますが、工場跡地でありましたので、煙突がございました。学生時代に面白い経験をしましたので、お話したいと思います。

その頃、特別講義というものがございまして、外から講師を招いて講義をしていただきました。小金井キャンパスはかまぼこのような教室が転々と並んでおり、グラウンドの横を通りながら教室へ行きました。ある日、真っ赤なスポーツカーがやってきて、かまぼこのような教室の前に止まりました。それで誰が降りてきたかという、本田宗一郎さんでした。機械科の学生なので、車には皆関心を持っていました。私の同期でその後、ホンダや富士重工など自動車会社で活躍した人が多くいました。本田先生の講義というのが契機になったんだろうと思います。

## 藤原 銀次郎

P.5



出典：個人蔵

藤原銀次郎さんを毎年誕生日にお招きして、みなでお祝いをしていました。写真の中央が藤原銀次郎翁で右手にいらっしゃるのが機械の笠原先生です。笠原先生は2期生で生え抜きの教授が出始めたころでした。そういう意味で工学部が変わろうとしていた時代でした。残念ながら藤原先生は翌年に亡くなりました。ここにいらっしゃる方も何人かは藤原先生にお会いしているかもしれません。先ほどの森可為先生は笠原先生と同じく2期生です。

為可

## 経歴ご説明(事務局追記)

- 1965年 慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了  
米国プリンストン大学プラズマ物理学研究所客員研究員
- 1966年 英国原子力カラム研究所研究員
- 1969年 慶應義塾大学助教授  
京都大学へ移られ、ヘリオトロン核融合研究センター教授、  
センター長を歴任。
- 1989年 文部省核融合科学研究所長
- 1995年 プラズマ・核融合学会会長
- 1999年 中部大学長
- 2005年 中部大学総長
- 2011年 学校法人中部大学理事長・中部大学総長

私のことを少しお話します。私は慶應の機械工学科でドクターではプラズマの研究を学びました。笠原先生はたいへん包容力があられて何でもやり給え、何でも好きなことをやり給えと言ってくださり、好きなように研究をしていました。当時プラズマを教える先生はいませんでした。自分で修士論文を書いて、自分で審査をしました。そういう自由な雰囲気がありました。そういう意味では福澤先生や藤原先生の自由な精神が生きていました。これが私の人生で今日まで続いているわけです。大学に残っても設備がなく実験もできないということで、ドクターを取った後アメリカのプリンストン大学に2年間行きました。国立大学では指導教授が推薦状を書くのですが、慶應義塾にはそのようなものがなかったので、自分で推薦状を書きました。その後、イギリスに2年間行きました。帰国後慶應に1年いて京都大学に移り、19年間本格的なプラズマを研究しました。もっと大きな核融合施設を作ろうという話になった時、京都方式が採用されたことから、岐阜県土岐市にできた核融合科学研究所長となり、10年間でプラズマ装置を完成させました。中部大学に移り、学長、理事長をやらせてもらいました。

これまで慶應の同窓会にあまり関わっていませんでした。ただ、どこに行っても三田会はありまして、慶應義塾の教え、魂は残っています。これは三田会のすごさでして、早稲田大学にも中部大学にも三田会はあります。

があると聞いていますか。

## 福澤諭吉の精神

- 独立自尊の自立の精神
- 立国は私なり、公にあらざるなり

私は何もないところで自由に学生生活をさせていただきましたし、私の体から離れないのは福澤精神であります。独立自尊。アメリカへ行っても自然に入っていたのは福澤精神のおかげです。1901年に福澤先生はお亡くなりになりました。その1年前に「散歩党」というものを作られました。学生と毎朝6kmぐらい歩かれる。健康のためですね。散歩党を作って学生と交流をするというのを最期までされておりました。私も中部大学で散歩党を作って学生たちと話しながら歩くというのもそろそろやってもいいのかなと思っています。いずれにしても私を常に支えてくれたのは福澤先生です。

幹事さんより後輩へのメッセージを頼まれていました。自立の精神を大切に人生を整えました。

送ってほしい

また、最近特に気になっておりますのは、やはりこれも福澤先生の言葉ですが、立国は私なり。公にあらざる、官ではないぞということですね。特に教育もこれからは私立の時代だと思っているわけですが、アメリカもプリンストンなどは全部私立なんですね。州立大学もありますけど、頑張っているのは皆私立大学です。やはり何が大切かという多様性があるということです。どこの国もそうですけど、官の力から民の力へ移らないといけないのではないかとメッセージとさせていただきます。